

## 時代別の帖佐人形

帖佐人形は窯元が多かったため、製作者を特定することは困難ですが、製作年代が判明したものは下段に記しました。



鯉抱き金太郎  
大正3年(1914)



山姥(やまんば)



かぶと  
兜もち



武者(むしゅ)  
明治時代



武内宿禰(たけのうちのみすくね)  
大正3年(1914)



武内宿禰  
昭和10年代



神功皇后(じんくうこうごう)  
大正3年



鳥かごもち  
大正3年



おぼこ

## 戦後復活した人形たち

帖佐人形保存会 昭和40年(1965)発足。

故折田太刀男氏の作品



熊乗り金太郎



佐々木四郎高綱



陸軍大将

折田貴子氏の作品(昭和62年撮影)



神功皇后

座り犬

犬乗り童子

袋もち

鯛抱きエビス

帖佐人形の展示施設

### 始良町歴史民俗資料館

〒899-5421鹿児島県始良郡始良町東餅田498番地  
TEL0995-65-1553 FAX0995-66-5820

- ◆開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
- ◆休館日 月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)  
毎月25日(日曜除く) 年末年始(12/28~1/4)

◆入館料

区分	個人	団体
一般・大学生	210円	150円
小学・中学・高校生	100円	50円

\*団体は15名以上

編集・発行 始良町歴史民俗資料館  
発行年月日 平成18年3月31日

## 始良町歴史民俗資料館

郷土の素朴な伝統工芸品



武者



犬抱き女

帖佐人形



たけのうちのみすくね  
武内宿禰



# 帖佐人形の概要

素朴で郷土色豊かな帖佐人形は、鹿児島県を代表する土人形です。その起源ははっきりしませんが、嘉永6年(1853)の刻銘をもつ土型(右写真)が残っていますので、遅くとも江戸時代の後半には人形製作が始まっていたと推測されます。一般に土人形の起源は、京都の伏見人形といわれており、その始まりは江戸時代中頃であり、型入れの製作技法はまたたく間に全国に普及したといわれています。



嘉永6年の刻銘土型

帖佐人形は高樋集落を中心に作られていたことから高樋人形とも呼ばれています。最盛期の大正年間には、約40窯を数え、全国にその名が知られていました。

昭和の初めごろに途絶えてしまいましたが、昭和40年(1965)折田太刀男・湯田晃氏ら有志によって帖佐人形保存会が結成され、帖佐人形が復活しました。

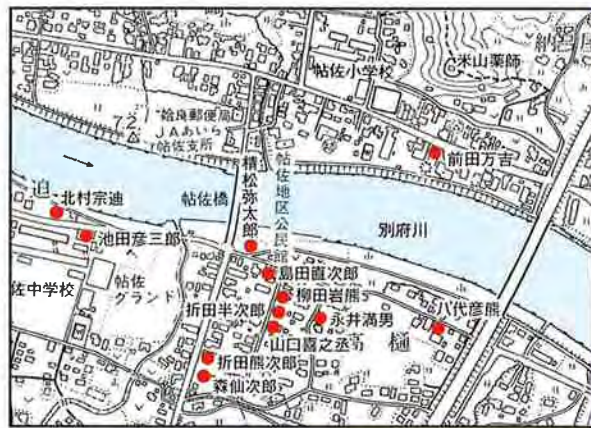


図1 大正から昭和初期にかけての帖佐人形窯分布図(始良町西餅田高樋集落とその周辺)

# 土人形の歴史

## 江戸時代の土人形

江戸時代の農学者大蔵永常(のうかくしのおおくらながつね)が著した「広益国産考」には、三河人形の製作方法が詳しく絵入りで述べられています。明治時代には、全国の土人形産地は145ヶ所あり、九州には21ヶ所ありました。



図2 型入れ



図3 窯出し



図4 絵付け

# 帖佐人形の種類

現在、帖佐人形として確認されているものは、大きさの大小を区別しないで、79種類を数えます。

## 男人形(25種)

雛人形(対)・羽織着相撲取・取り組み相撲(大小)・鎧武者(大中小)・佐々木四郎高綱・源義経・曾我五郎・加藤清正・男舞・清水次郎長・犬乗り童子(2種)・犬抱き童子・牛乗り・小僧・綿帽子・石童丸・名僧・宝袋もち・太鼓乗り・鯛もち・鯛抱き・琵琶法師(大小)・大石内蔵助・大石主税・饅頭割り

## 女人形(22種)

八重垣姫(兜さざげ)・雛人形(対)・兜もち・兜さざげ(大小)・鳥かごもち・三味線もち・子抱き女・茶摘み女・子守女・犬抱き女・七五三子守女傘もち・七五三子守女鞠もち・鼓もち・花嫁・静御前・官女・元禄女・経読み女・三味線女・ゴットン弾き・男女抱合人形・御高祖頭巾

## 動物(7種)

鶏(対)・猫手まり遊び・猫・招き子犬・狛犬(立犬)・狛犬(座犬)・狛犬(他6種)

## 時代風俗(6種)

騎兵・海軍・陸軍大将・大礼服・女学生・自転車乗り



犬抱き女の土型

## 神話伝説(4種)

武内宿禰(大・小)・神功皇后(大・小)・山姥・竜王

## 縁起物(15種)

福助・三番嬰・熊抱き金太郎(大・小)・熊乗り金太郎・鯉抱き金太郎・鯛抱き恵比寿・鯛乗り恵比寿(大・小)・亀抱き童子・犬黒様(大・小)・俵乗り大黒・俵乗り若大黒・若大黒(大・小)・福猿・天神(大・中・小)・犬尽

帖佐人形では、神功皇后や武内宿禰、金太郎など神話や昔話からの人形が多く作られました。